地域NEWS リレー

六尺藤の花見会 【5/13・今市】

今年で3回目となる、大沢町第二区主催による龍蔵寺六尺藤の花見会。地元の農産物や加工品のほか、手打ちそばやおでんなどを販売する模擬店も出店し、会場はちょっとした観光スポットに。普段はひっそりと見学して帰る行楽客の多い龍蔵寺ですが、この日は観光客や地元の皆さんが集まり、大にぎわいでした。

文・写真：大沢町第二区

日光公民館まつり 【5/26～5/27・日光】

日光公民館で、公民館まつりが開催されました。普段から日光公民館を利用しているサークルが協力し、日々の活動で作り上げてきた作品を展示したり、活動内容を発表したりしました。

また、日光和敬会によるお茶会も行われ、公民館へ訪れた皆さんにおいしいお茶を振る舞いました。

文・写真：日光公民館

ニッコウキスゲの捕植 【6/1・日光】

霧降高原キスゲ平一帯に群生しているニッコウキスゲは近年、シカの食害により数を減らしていました。そのため、平成元年から補植が行われてきました。この日は、斎藤市長や田井市議会議長、市職員など37名が参加し、約500株の苗を植えました。7月上旬には、満開のニッコウキスゲを楽しむことができます。

文・写真：霧降高原リフト事業所

クリーン大作戦 【6/3・全域】

ごみのないきれいな街を目指そうと、環境美化や啓発活動の一環として、クリーン大作戦が行われました。早朝にもかかわらず、各地域で大勢の人が参加し、袋を片手にたくさんのごみを拾っていました。この日集められたごみの量は、可燃ごみが約8・8トン、不燃ごみが約17・1トン（粗大ごみを含む）でした。

文・写真：環境課

魚の供養碑を建立 【5/19・藤原】

横川在住の阿久津等さんが自費で魚の供養碑を建立し、入魂式を行いました。男鹿渓流会の代表を務め、釣り人と交流を深めている阿久津さん。「訪れた人に魚の供養や、山や川の安全祈願をしていただこうと建立しました。そして、今後も安全に三依の自然を楽しんでいただければ満足です」と話していました。

文・写真：藤原総合支所市民課三依支所

避難訓練を実施 【5/27・足尾】

国土交通省が実施する「土砂災害に対する全国統一防災訓練」に合わせ、災害避難訓練が足尾町通洞地区で行われました。訓練に参加したのは、通洞地区住民や足尾消防団団員、足尾防火クラブのメンバーなど約100名。避難場所の足尾市民センターでは降雨体験車も準備され、多くの人が暴風雨を体験していました。

文・写真：足尾総合支所総務課

丹勢山の森林整備 【6/2・日光】

丹勢山に自生するヤマツツジ群落の保全を目的として、丹勢山森林整備とハイキングが実施されました。初夏の日差しの中、47名の参加者は日光森林管理署の職員からノコギリの使い方を教わった後、雑木の伐採に約2時間汗を流しました。作業後は、山頂から雄大な日光連山を眺め、日光の自然を満喫しました。

文・写真：日光総合支所農林課

地域のニュースを募集します!!

皆さんから記事・写真を募集します。身の回りの「ほっ」とする話題、「あっ」と驚く出来事などを送ってください。

応募方法　記事に写真を添え、住所・氏名・電話番号を明記の上、郵便かEメールで送付または持参してください。

○記事…120字程度（題名、日付、場所を別に記載のこと）

○写真…紙焼き・デジタルデータ（携帯電話のカメラで撮ったものなど、大きくした際に画像が荒れるものは不可）

あて先　〒321-1292　日光市今市本町1番地
日光市役所 企画部 秘書広報課 広報広聴係
Eメール　hishokouhou@city.nikko.lg.jp

小杉放菴記念日光美術館

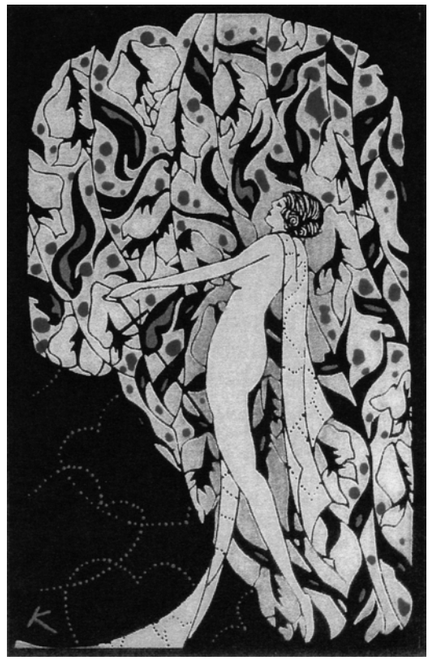
〒321-1431 日光市山内2388-3　TEL：50-1200

大正ノスタルジー
"小林かいち"と絵葉書の世界

本名や生没年が不詳のため、「謎のデザイナー」と称される小林かいち。京都で活躍し、大正時代末期から昭和20年代前半にかけて作品を製作していたことしか分かっていません。しかし、彼のデザインによる絵葉書は約50点、絵封筒にいたっては500点以上も確認されています。近年では、数々の展覧会で紹介され、非常に高い評価を得ています。

小林かいちの作品約200点と、同じ時代を生きた竹久夢二や加藤まさを、蕗谷虹児の作品など、大正ロマンの香りを色濃く残す抒情的なデザインの数々を展示します。繊細にして華麗なる小林かいちの魅力を存分にお楽しみください。

会　　期：7月21日（土）～9月2日（日）
開館時間：午前9時30分～午後5時
　　※入館は午後4時30分まで
休 館 日：会期中は無休
入 館 料：一般…700（300）円　大学・高校生…500（200）円
　　小・中学生…300（100）円
　　※（　　）内は市民割引券を利用した際の料金



小林かいちの絵封筒「灰色のカーテン」より　個人蔵

KOSUGI HOAN MUSEUM OF ART, NIKKO
小杉放菴記念日光美術館

本を楽しむコラム

図書館へ行こう！

『芥川賞と直木賞』

毎年一月と七月の年二回、日本の文壇や出版界における一大イベントが開催されます。それは、芥川賞と直木賞の受賞作発表です。

この二つの賞は、㈶日本文学振興会が主催する文学賞です。小説家の菊池寛によって昭和十年に制定され、今年七月で百三十七回目を迎えます。受賞作は、それぞれ九名の選考委員による合議制で選ばれます。

ところで、皆さんは芥川賞と直木賞の違いをご存じですか？

芥川賞は、新聞や雑誌で発表された純文学（主に、芸術性や形式に重点を置いた文学）の短編小説が対象です。主に、無名や新進の作家に贈られます。

直木賞は、新聞や雑誌、単行本で発表された大衆文学（主に、娯楽性や商業性に重点を置いた文学）の短編または長編小説が対象です。主に、無名や新進、中堅の作家に贈られます。

ちなみに、このニつの賞はそれぞれ、ある小説家の名前を記念して制定されました。芥川賞は、皆さんもご存じの芥川龍之介です。それでは、直木賞の直木とは誰のことでしょう。答えは、直木三十五です。直木三十五は、大正時代から昭和初期にかけて活躍した時代小説家です。大正五年に発表した『南国太平記』で、大衆文学の分野において確固たる地位を築きました。

日本には数え切れないほどの文学賞があります。しかし、芥川賞と直木賞はどちらも最高峰の賞であることに間違いはありません。あなたも、それぞれの時代で日本文学の頂点を極めた受賞作品の数々を読んでみてはいかがですか。